

日本語と中国語における依頼の丁寧度

谷口 龍子 *

I. はじめに

中国語を母語とする日本語学習者には、依頼表現に関する誤用に一定のパターンが見られる。たとえば、友人にペンを借りる行為として、「ペンを貸してください」という表現はできるが、タクシーの運転手に対しては、「武蔵境へ行きます」、店での注文では、「ハンバーガーが食べたいです」というような誤用が見られるのである。同じ母語の学習者全体に共通して見られる誤用の原因は、母語からの言語転移である可能性が高い。これらの例はいずれも依頼行為であるにも関わらず、一部の依頼のみに誤用が生じるということから、日本語と中国語では、依頼の場面によって、表現形式の使い分けが異なるのではないかという推測が生まれる。

本稿は、日本語で一般的に依頼といわれる行為を「指示・注文」と「依頼」の場面に分類し、両場面において、日本語と中国語にどのような依頼表現が使用されるのかを談話完成テストの調査から分析したものである。さらに、依頼の丁寧度と文構造の関わりについても考察した。

II. 先行研究

近年の日本語と中国語の依頼に関する先行研究は、表現形式の丁寧度、ポライトネスの方略についての研究、談話レベルにおける依頼ストラテジーの量的調査の三つに大別できる。

表現形式の丁寧度については、林 (1982, 60-72 頁) で、命令・依頼・禁止を表す表現形式の丁寧度について日本語と中国語を比較しているが、「～てください」と“請”を中心とした言語形式のみについての考察であり、使用場面については触れていない。浜田 (1995, 69-75 頁)、Haugh & Hinze (2003, 1581-1561 頁) は、Brown&Levinson (1987)

* 大学院比較文化研究科博士後期課程

のポライトネス理論の枠組みで、中国語の依頼におけるポジティブ・ポライトネスやネガティブ・ポライトネスを提示しているが、いずれも局所的な観察に留まっている。近年は、談話レベルから捉えた依頼の方略に関する量的研究が盛んであり、代表的なものに橋本(1992, 107-159頁)、謝オン(2001, 77-101頁)などがある。張・王(1997)では、大学講師、医師など高学歴の中国語話者100名に談話完成テストによる調査を行い、中国人の「依頼」行為にも日本語と同様に〈会話の初めに相手の注意を引く部分〉(Alter)、〈「依頼」の中心的部分〉(Head Act)、〈補助的な部分〉(Move(s))の三要素が見られることを実証している。

しかしながら、これらの先行研究においては、日中両語の個別の依頼表現に関する分析は行われているが、同一場面による表現形式の相違については書かれていない。唯一、木村(1987b, 58-66頁)で、日本語と中国語において依頼表現が使用される場面の相違について言及している。

Ⅲ. 日本語と中国語における「依頼」の表現形式

日本語の依頼表現について、益岡・田窪(1993, 121-122頁)では、直接相手に動作の依頼をする「直接依頼形式」(①～てくれ、～てください、～てちょうだい)②疑問の形：～てくれるか、～てくれないか、～てもらえるか、～てもらえないか+だろうか、でしょうか)と相手に間接的に動作の依頼をする「間接依頼形式」(③相手の動作を自分が望んでいることを知らせるもの：～てほしい、～てもらいたい、～てほしいのだけれども、④自分にとって有益であることを知らせることで、相手が動作をするように仕向けるもの：～てくれると助かる、～てくれるといいのだが、～てくれるとありがたいのだけれども)に分類し、間接依頼形式は直接依頼形式より丁寧な表現になると述べている。

「直接依頼形式」の多くの主語は二人称であり、「間接依頼形式」の場合は、主語が一人称である。つまり、日本語の場合、主語に一人称を取るほうが丁寧度が高くなるということである。学生が教授に推薦状の作成を依頼する場合に、「推薦状を書いてくださいませんか。」というより、「推薦状を書いていただけたら有り難いのですが。」と言ったほうが丁寧だということである。

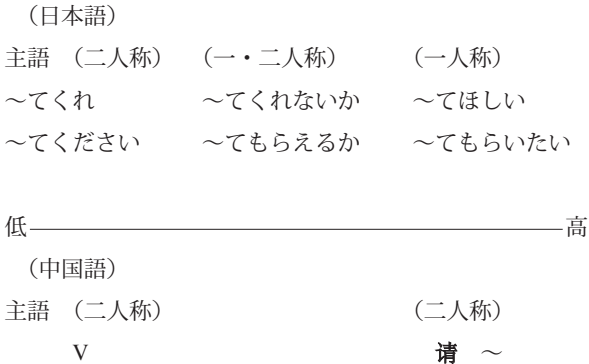
三宅(2004, 62-67頁)にも同様のことが述べられている。三宅は「ここにいろ」と「ここにいてほしい」という表現を比較した場合、後者のほうが、話し手が自分の願望という行為要求のための必要条件のみを述べている点で間接的であり丁寧であること述

べている。

中国語の依頼表現について、林(1982, 60-72頁)では“V”→“**请**+V(=～てください)”または“V+吧(了)(=～てください)”→“**请**+V+吧(了)(=～てくださいませんか)”の順で丁寧度が高くなると述べている。

以上の日本語と中国語における丁寧度の推移に関する先行研究をまとめると、次のような図になる。

図1)



IV. 問題の所在

I章で挙げた中国人学習者の誤用例と先行研究から、次のような問題点が挙げられる。

- ・日本語と中国語の依頼表現では、談話レベルの考察をする以前に文レベルにおける言語表現や文構造の相違を明らかにする必要がある。
- ・I章から、中国語では、依頼の場面によって、表現形式あるいは文構造が異なることが予測される。どのように異なるのかを実証的に観察する必要がある。
- ・日本語には、一人称を主語とする依頼表現が二人称を主語とする依頼表現より丁寧度が高くなるという先行研究があるが、中国語ではどうか。

以上の点を解明するために、データを収集し、考察することにした。

V. 「依頼」の種類

I章で挙げたタクシーの運転手や店の店員への発話は、いずれも客としての立場からの発話で、聞き手側は行為を遂行する立場にあり、友人にペンを借りる行為とは性質を異にする。そこで、調査に先立ち、中道・土井(1995, 84-93頁)と柏崎(1993)を参考に、依頼の場面を「指示・注文」と「依頼」に大別することにした。

「指示・注文」⁽¹⁾——話し手が当然の資格や権限を持って行為を遂行する立場にあり、聞き手もその行為を行うべき立場にある。

ex. 客がタクシーの運転手に行き先を告げる場合

レストランで客が注文する場合

「依頼」⁽²⁾——話し手の依頼行為を聞き手が実現させるかさせないかは、聞き手の意向により、決められる。

ex. 友人にノートを借りる場合

VI. 調査の概要および方法

1. 調査対象者

日本語を母語とする日本国内の大学生及び大学院生と、中国語を母語とする台湾在住の大学生各50名である。⁽³⁾ 調査対象者の選定にあたっては、海外在住経験の少ない者を選んだ。

2. 調査の方法

依頼の場面を複数設定し、回答者本人であれば、それぞれの状況においてどのような言い方をするかについて自由回答を求める談話完成テストを実施した。日本語母語話者に使用するものを日本語で作成し、それを中国語に翻訳した後にさらに日本語に訳し(back translation)同一性を高めた。但し、レストランの名称やタクシーでの行き先、交通機関については、日本人と台湾人の各々に最も身近なものや名前を使用し、対象者が遭遇し得る場面を想定した。また、台湾人日本語学習者に対しては、日本語の誤訳から生じる誤解を避けるために、日本語と中国語の両語で書かれたものを使用した。

3. 談話完成テストの内容

「指示・注文」と「依頼」の場面に加え、丁寧度の相違を見るために、親しい友人と、目上かつ社会的地位が高い者に対する「依頼」の場面を設けた。

また、「指示・注文」と「依頼」の言語表現の相違をより明らかにするために、本来なら指示あるいは注文を行うべき相手に「依頼」に近い行為を行うような場面も想定した（項目②、④を参照）。

上記の場面の設定にあたっては、本テストを作成する前に、日本人と中国人（台湾人を含む）の学生数名に対してパイロット調査を行った。

本テストの項目は以下の通りである。⁽⁴⁾

タクシーに乗る

- ①タクシーに乗って右に曲がる指示をする。（「指示・注文」）
- ②家に財布を忘れたので、運転手に家に戻ってもらう指示をする。（「依頼」に近い「指示・注文」）

高級レストランで

- ③ディナーコース A を一人分注文する。（「指示・注文」）
- ④テーブルに水をこぼしてしまったので、ウェイターに拭いてもらう。（「依頼」に近い「指示・注文」）

学校で

- ⑤とても親しい友人に昨日休んだ分の授業のノートを借りる。（親しい相手への「依頼」）
- ⑥大学の学長に留学に必要な推薦状を依頼する。（目上で社会的地位の高い者への「依頼」）

Ⅶ. 結果

上記のテストで得られた主な表現形式は以下の通りである⁽⁵⁾。

表 1)

①「指示・注文」: タクシーの運転手に行き先を告げる

日本語	%
Nまでお願いします	86%
Nまで	12%
NへVたいんですけど	2%

中国語	%
N	30%
我要去~(=私は~へ行く)	26%
请到N(Nへ行ってください)	24%

②「依頼」に近い「指示・注文」: 家に戻ってもらう

日本語	%
~てもらえますか?	30%
~ていただけますか?	18%
~てもらってもいいですか?	14%
~てください	8%
~ていただけませんか?	8%

中国語	%
请~(=~てください)	34%
可以V`吗(=~てもいいですか?)	24%
可以不可以V`?(=~てもいい?)	10%
V`(V命令形)	6%
可以请V`吗(=~てもよろしいですか?)	6%

③「指示・注文」: 高級レストランで注文する

日本語	%
N(を・で)お願いします	56%
Nを一つ	40%
Nをください	2%

中国語	%
N一份(=N一つ)	44%
我(想)要N(=Nがほしい)	32%
请给我N(Nをください)	14%

④「指示・注文」の相手への「依頼」: 水をこぼし、ウェイターに拭いてもらう

日本語	%
~てもらえますか?	30%
~ていただけませんか?	22%
すみません、こぼしました	20%
~てください	6%
~ていただきたいのですが	4%

中国語	%
可以V`吗(=~てもいいですか?)	40%
请~(=~てください)	18%
V(=Vてくれ)	10%
对不起(=すみません)	8%

⑤「依頼」: とても親しい友人にノートを借りる

日本語	%
~て	34%
~てくれない?	18%
~てもらえる?	12%
~てくれる?	10%
~てもいい?	10%

中国語	%
可以V`吗(=~てもいいですか?)	28%
N借我/借我N(=Nを貸せ)	28%
可以不可以V`(=~てもいいか?)	6%
N,借我好不好(=N借りる。いい?)	4%
N,借我好吗(=N借ります。いいですか?)	4%

⑥「依頼」：学長に推選状を頼む

日本語	%
～ていただきたいのですが(よろしいでしょうか?)	18%
Nをお願いしたいのですが(よろしいでしょうか?)	12%
～ていただけないでしょうか?	12%
～ていただけませんか?	8%
～ていただけますか?	8%

中国語	%
可以请 V 吗(～ていただいてもよろしいでしょうか?)	26%
可以 V 吗(～てもいいですか?)	20%
可以不可以请您 ～吗 (=～ていただいてもいいですか?)	12%
请您 (=～てくださいませんか?)	8%
能不能请您～ (=～ていただくことができますか?)	6%

VIII. 考察

1. 「指示・注文」と「依頼」の場面で使用される日本語と中国語の表現形式

日本語と中国語ともに、「指示・注文」と「依頼」の場面において、それぞれ表現形式が大きく異なることがわかった。

(1) 「指示・注文」の場面

日本語では、「お願いします」が最も多く使用されていた(項目①では86%、項目③では56%)。中国語では、一人称を主語とする“我要N”(=Nがほしい)が最も多く使用される(項目①で26%、項目③で32%)。したがって、I章で挙げた学習者のタクシーの運転手に対する誤用“武蔵境へ行きます”は、中国語からの語用論的言語転移の可能性が高いということが確認された。また、“我(想)要N”(=Nがほしい/～たい)ほど回数は多くないが、“请V”(=Vてください)も使用されることがわかった(項目①で24%、項目③で14%)⁶⁾。日本語での一人称を主語とする表現は、「武蔵境へ行きたいんですけど」が2%のみであった。

(2) 「依頼」の場面

日本語では、最も丁寧度が低いと思われる項目⑤(友人にノートを借りる)の場面では、「ノート貸して」という表現が34%で最も多かったが、それ以外の「～てくれない?」(18%)「～てもらえる?」(12%)「～してくれる?」(10%)「～てもいい?」(10%)

などすべてが疑問形である。本来、指示や注文をする相手への依頼（項目②、④）においても「～てもらえますか？」（項目② 30%、項目④ 30%）、「～いただけますか」（項目② 18%）や「～いただけませんか」（項目④ 22%）などが使用され、最も高い丁寧度が要求されると思われる項目⑥においても「～いただきたいのですが、（よろしいでしょうか）」が18%で、「Nをお願いしたいのですが、（よろしいでしょうか）」（12%）「～いただけないでしょうか」（12%）が続き、以下「～いただけませんか」（8%）、「～いただけますか」（8%）と、すべて疑問形が使用されていた。

一方、中国語では、項目⑤の親しい友人にノートを借りる場面では、“可以～吗”（=Vてもいいですか）と“N借我/借我N（ノートを（私に）貸せ/（私に）貸せ、ノートを）”が28%と同数で最も多かった。項目②の運転手に家に戻ってもらう場面では“请V”（=Vてください）が34%と最も多く、“可以～吗”（=～てもいいですか）が24%と続いた。項目④の水をこぼし、ウェイターに拭いてもらう場面では、項目②と順序が逆転し、“可以～吗”（=～てもいいですか）が40%、“请V”（=Vてください）が18%であった。最も高い丁寧度が要求されると思われる項目⑥では、“可以请～吗”（=～ていただいてもよろしいでしょうか）が26%と最も多く、“可以～吗”（=～てもいいですか）が20%と続いた。項目⑥では、“可以请～吗”（=～ていただいてもよろしいでしょうか）、“可以不可以请您～吗”（=～ていただいてもいいですか）や“能不能请您～”（～ていただいてもいいですか）のように、“请”を本動詞とする使用が目立った。先行研究で挙げられていたような“请”を敬辞として使用する“请V”（=Vてください）は、項目②と項目④においてのみ使用されている（項目②34%、項目④18%）。このことから、先行研究で挙げられた敬辞としての“请”は、「指示・注文」或いはそれほど高い丁寧度が要求されない「依頼」の場面において使用されることがわかった。

また、いずれの「依頼」の項目においても、許可を求める意味を持つ“可以～吗”（=Vてもいいですか）や“能不能～吗”（=～ことができますか）のように、日本語と同様に疑問形が多く使用されることがわかった。

日本語と中国語の「指示・注文」と「依頼」の場面に見られる主な表現形式は、以下のとおりである。

図 2)

「指示・注文」の場面

日本語	中国語
N	N
N お願いします。	我（想）要 N/V” (=N がほしい/～たい) 请 V (=V てください)

「依頼」の場面

日本語	中国語
～て ～てもらえ（る・ますか）？	～たいのですが（よろしいでしょうか）
(丁寧度) 低-----高	
V 可以 V 吗 (= V てもいいですか)	可以请 V~ 吗 (= V ていただいてもいいですか)

日本語教育において、依頼表現の代表的なものとして指導される「～てください」の形式は、項目②と項目④の「依頼」に近い「指示・注文」において、若干使用されているだけであり（項目②では 8%、項目④では 6%）、使用頻度がそれほど高くないことがわかった。

2. 丁寧度による文構造の相違

日本語と中国語の共通点として、「指示・注文」においては、「お願いします」や“我 要 N” (=N がほしい) のように、一人称を主語とする文構造が多く使用されており、丁寧度が高くなると、「～ていただきたいのですが、（よろしいでしょうか？）」、「N をお願いしたいのですが、（よろしいでしょうか？）」や“可以～吗” (= V てもいいですか) “能不能～吗 (=～ことができますか)”のように主語が非人称になる点が挙げられる。仁田(1992, 229-230 頁)では、「命令は、命ずれば、話し手が相手の欲求に沿った動きが実現することを前提としているのに対して、依頼は、依頼することとし

てのそれに応ずる意思・好意が相まって、話し手の欲求に沿った動きが引き起こされるのである。(中略) もっとも、命令や依頼がこういったものであるにしても、両者は連続しており、繋がっている」というように、命令と依頼との連続性について述べられている。「指示・注文」は、話し手が行為を要求する権限を持つという点から見て、命令行為に近いものであると言えるであろう。

「命令」、「指示・注文」、「依頼」を連続的なものとして見た場合、それらの文構造は、「命令」において使用される命令形では二人称が主語となり、「指示・注文」では、一人称が主語、「依頼」では、非人称が主語として多く使用され、図3のように推移することになる。

図3)

日本語	{二人称}	{一人称}	{非人称}
V	～てください	～てもらえ(る・ますか)?	～たいのですがよろしいでしょうか
(丁寧度)	低	-----	高

中国語

V	请~	可以V吗	可以请V~吗
	(=～てください)	(=Vてもいいですか)	(=Vていただいてもいいですか)
			能不能V~吗
			(=Vことができますか)
	{二人称}	{非人称}	

IX. おわりに

今回の調査から、以下のような結果が得られた。

「指示・注文」と「依頼」の場面では、日本語と中国語ともに、依頼の表現形式が大きく異なる。「指示・注文」の場合、日本語では、「お願いします」が多く使用されるが、中国語では、一人称を主語とした“我(想)要N/V(=Nがほしい/～たい)”が最も多く使用される。

「依頼」の場合、日本語では、「Vて」或いは、「～てもらえ(る・ますか)?」、「～

ていただけます(ません)か」が使用され、中国語では、“可以～吗”(=Vてもいいですか)が使用されるなど、両語とも疑問形が使用される点で共通している。また、さらに高い丁寧度が要求される場面では、日本語では、「～たいのですが、よろしいでしょうか?」、中国語では、“可以请V～吗(=～てもいいですか)”や“能不能～吗(=～ことができますか)”のように、両言語ともに非人称が使用されることがわかった。「命令」、「指示・注文」、「依頼」を連続的なものとして見た場合、日本語と中国語ともに、主語となる人称は、二人称→一人称→非人称と移行するにつれて丁寧度が高くなっていると言えよう。

また、日本語教育では、「～てください」の表現形式が依頼表現の代表的なものとして指導されているが、実際には丁寧度の低い「依頼」において使用されており、使用頻度もそれほど多くないことが観察された。

本調査は、あくまでも談話完成テストからのデータ分析であるので、自然発話とは異なることが予想されるが、言語使用の意識という点からも有用であると思われる。

{謝辞} 本調査には、臺灣大学日本語文学系陳明姿教授、黃鴻信先生、朱秋而先生、林立萍先生、東呉大学陳淑娟教授、林文賢先生、京都橘大学言語教育センター塩入すみ先生並びに学生の方々に、御協力いただきました。

また、英文要旨執筆にあたり、肥爪淳子さんにもお世話になりました。

最後に、御指導くださいました広瀬正宜先生、根津真知子先生並びに古藤友子先生にも御礼申し上げます。

注

- (1) 中道・土井(1995)では、「注文」と「指示」が分けられていたが、両者ともに聞き手が行為を行うべき立場にいる点で同類と考え、本稿では一つにした。
- (2) 以下、このような狭義の依頼を括弧付きで「依頼」とする。
- (3) 従って、本調査の対象は台湾で使用される中国語に限定される。
- (4) その他、後輩への「依頼」、知らない人への「依頼」、ファーストフードの店での「指示・注文」などの調査項目を設けたが、他項目の結果と著しい相違は見られなかったため、今回の考察の対象外とした。
- (5) 論文における表記は筆者が簡体字に統一した。

- (6) ここで、中国語の「指示・注文」の場面において、“請V”(=Vてください)が使用されているにもかかわらず、日本語学習者の中に、なぜこの場面において「～てください」が使用されないのかという疑問が起こる。それについては、「指示・注文」の場面では、“我(想)要N/V”(=Nがほしい/～たい)“が最も多く使用されていることと、母語話者にとって、中国語の”請“は、“請喝茶(=お茶をどうぞ)、“請坐(=どうぞ座ってください)“のように、勧めの機能としての認識が強く、依頼の機能としての意識が弱いという理由が考えられる。

参考文献

- Michael Haugh, Carl Hinze, 2003, 'A metalinguistic approach to deconstructing the Concepts of 'face' and 'politeness' in Chinese, English, Japanese' *Journal of Pragmatics* 35 1581-1561
- 浜田麻里 (1995)「依頼表現の対照研究—中国語における命令依頼表現の方略」『日本語学』10月号 明治書院
- 柏崎秀子 (1992)「話しかけ行動の談話分析—依頼・要求表現の実際を中心に」『日本語教育』79号
- 柏崎雅世 (1993)『日本語における行為指示型表現の機能』くろしお出版
- 木村英樹 (1987a)「中国語の敬語」『月刊言語』vol.16 No.8 大修館書店
- (1987b)「依頼表現の日中対照」『日本語学』10月号 明治書院
- 益岡隆志・田窪行則 (1993)『基礎日本語文法』くろしお出版
- 林淑珠 (1982)「日本語と中国語の命令・依頼表現の比較—丁寧度の観点から」『国語学研究』東北大学文学部
- 盧万才 (2001)「中国語敬辞「請」の使用特徴に関する考察」『日本中国語学会予稿集』
- 前田広幸 (1990)「～てください」と「お～ください」『日本語学』5月号 明治書院
- 益岡隆志・田窪行則 (1993)『基礎日本語文法』くろしお出版
- 三宅知宏 (2004)「敬意表現から見た「主語」」『月刊言語』Vol.33.No.2
- Michael Haugh, Carl Hinze, 2003, A metalinguistic approach to deconstructing the Concepts of 'face' and 'politeness' in Chinese, English, Japanese. *Journal of Pragmatics* 35 1581-1561
- 根津真知子 (1995)「待遇表現の観点からみた授受表現の「依頼」と「申し出」」『日本語教育の課題』東京堂出版
- 仁田義雄 (1992)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- Penelope Brown & Stephen C. Levinson, 1987, *Politeness*. Cambridge University press,
- 謝オン (2001)「談話レベルからみた「依頼発話」の切り出し方—日本人大学生同士と中国人大学生同士の依頼談話から」『日本研究教育年報5 2000年度版』東京外国語大学
- 鮫島重喜 (1998)「コミュニケーションタスクにおける日本語学習者の定型表現・文末表現の習得過程—中国語話者の「依頼」「断り」「謝罪」の場合—」『日本語教育』98号

谷口龍子 (2005) 「日本語と中国語の「依頼」に関わる一考察—「～てください」「お～ください」と“請”を中心に—」『日本研究と日本語教育におけるグローバルネットワーク』香港城市大学語文学部、香港日本語教育研究会

Yueguo Gu, 1990, Politeness phenomena in modern Chinese. *Journal of Pragmatics* 14 237-257

张绍杰、王晓彤 (1997) 「“请求” 言语行为的对比研究」『现代外语』第3期

資料①

談話完成テスト (日本語)

タクシーに乗る

1 (右に曲がる指示をしてください)

「

」

2 (運転手に対して財布を忘れたので、家に戻ってもらふ指示をしてください)

「

」

帝国ホテルのフランス料理専門レストランで

3 (デイナーコースAを一人分注文してください)

「

」

4 (テーブルに水をこぼしてしまいました。ウェイターに拭いてもらふ指示をしてください)

「

」

学校で

5 (とても親しい友人に昨日休んだ分の授業のノートを借りてください)

「

」

6 (大学の学長に留学のための推薦状を直接頼んでください)

「

」

資料②

談話完成テスト (中国語)

坐計乗車

1 (您想讓他右轉, 對司機怎麼說?)

「

」

2 (您發現自己忘了帶錢包,想請司機載您回家,對司機怎麼說?)

「

」

在亞都大飯店法國餐廳

3 (您想點一份套餐,對服務生怎麼說?)

「

」

4 (假設您不小心,把水打翻了,想請服務生來擦桌子,怎麼說?)

「

」

在學校

5 (假設您昨天沒來上課,所以想請好朋友借您筆記本,對他怎麼說?)

「

」

6 (爲了去日本留學,所以想請校長幫您寫推信,對他怎麼說?)

「

」

Politeness Degree of Requests in Japanese and Chinese

<Summary>

Ryuko Taniguchi

In the usage of sentence structures commonly categorized as “request-making”, a certain pattern in error-making is recognizable among learners of Japanese with Chinese speaking background. They are more prone to make errors in occasions such as ordering food or telling destination to a taxi driver than in situations such as borrowing a pen. In the former type of situation, the learners often use expressions such as “Musashisakai e ikimasu” or “Hanbaagaa o tabemasu”. A possible interpretation for this phenomenon is that these errors are caused in the process of pragmatic language transfer.

In this paper, I have divided the request-making in two further sub-categories: “order” in which speaker is entitled to be served and listener needs to accommodate the speaker’s will: “request” in which listener has a choice for accommodating or declining the speaker’s will. I shall discuss the difference between Chinese and Japanese speaking groups, found in language representations, and the sentence structures employment (especially in the case where the subject is a person) in various situations on the basis of research of discourse completion test, which were conducted on 50 native speakers of both Japanese and Chinese.

The results of this research are as follows:

- Language representations differ between the situations of “order” and “request” in both Japanese and Chinese. “Onegaishimasu” is used in Japanese in the “order” situation. On the other hand, “wo (xiang) yao N/V” (=I will~) is used in Chinese in similar situation: the use of first person as subject in Chinese sentence structure is notable.
- In the situation of requests, interrogative sentences are used in both

Japanese and Chinese. “~te morae(ru/masu ka)?”, “~te itadakemasen ka” etc. are used in Japanese while “keyi ~ma?”(= Can ~?) is used in Chinese.

- In the situation that people are obliged to use polite expressions, Japanese people tend to say “~tai nodesu ga”, “yoroshii desho ka?” etc. while Chinese people tend to say “keyi qing V ma?”(=Can ~?) or “neng bu neng ~ma?”(=Can ~?). That is to say, Impersonal is used as subject in more polite situation in both Japanese and Chinese.